

がん患者と家族を支える看護体制の構築

—症状スクリーニングシートの導入とリンクナースの育成—

施設名：関西医科大学附属枚方病院 氏名：村山 里香

【概要】

診療報酬の要件である症状スクリーニングシートの導入を企てる立場で、がん専門・認定看護師を支援し症状スクリーニングシートの導入とがん患者の痛みに寄り添えるリンクナースの育成に取り組んだ。また、がん領域の看護外来を組織の中で概念化し、がん拠点連携病院における看護師の役割を明確にした。

がんサポート外来は10月から開始し、参加患者は1回平均8～10名であった。終了後にとったアンケート結果では、「わかりやすかった」「少人数で聞きやすかった」「待ち時間にちょうど良かった」などの評価を得た。症状スクリーニングシートは、リンクナース会を通して導入の工夫点を共有した結果、現在がん患者の9割に導入することができた。がん看護専門・認定看護師の病棟ラウンドなどがん領域の活内容を可視化したことで、緩和ケアチームの介入件数は今年の4倍に増加し、診療報酬は半年で100万円の増収となった。この結果を組織に公開した。

専門・認定看護師を使って症状スクリーニングシートの導入と、リンクナースの育成を組織で取り組めるようにバックアップし、その活動の評価・結果を公表したことは、組織からの承認を受けた専門・認定看護師のモチベーションアップにつながった。能力の高い専門・認定看護師を活用することは看護の質を向上させることにもつながる。看護管理者として、人材活用を組織の中でいかにシステムティックに動かせるかが重要である。

【背景】

平成26年度の診療報酬改定でがん診療連携拠点病院は「がんと診断された時からの緩和ケアの推進に対して緩和ケアに関する看護師の育成」と症状スクリーニングシートの導入が義務づけられた。当院では、症状スクリーニングシートは導入しておらず、診療報酬上の基準もないため、施設独自での作成が求められた。診療報酬の改定や在院日数の短縮に伴い、がん治療は入院から外来へ移行してきている。1日平均2000人の外来患者を受け入れている中で、がん患者の診断早期から意思決定支援に関わることは、時間の制約もあり難しい。当院ではがん領域の専門・認定看護師を外来に3名配置しているが、組織の中でその活動内容は可視化できていないのが現状である。そこで、診療報酬の要件である症状スクリーニングシートの導入を企てる立場で、専門・認定看護師を支援し、スクリーニングシートの導入を機会として、がん患者の痛みに寄り添えるリンクナースを育成したいと考えた。また、がん領域の看護外来を組織の中で概念化し、がん拠点連携病院における看護師の役割を明確にしたいと取り組んだのでここに報告する。

【実践計画】

1. 目標

- 1) がん看護専門・認定看護師を支援し、がん看護に関するサポート外来を開設し、外来からがん患者の意思決定支援に関わる体制を作り概念化する
- 2) 緩和ケアリンクナースを育成、患者の心身の苦痛に個別に対応できる症状スクリーニングシートを作成し導入する

2. 方法

1) がん看護専門・認定看護師を支援し、がん看護に関するサポート外来を開設し、外来からがん患者の意思決定支援に関わる体制を作り概念化する

- (1) がん看護専門・認定看護師及び外来管理者と運用検討会を実施する
- (2) 運用フローを作成する(8月)
- (3) 看護外来を先駆的に行っている施設への病院訪問(岐阜大学)
- (4) がんサポート外来の説明(師長会・外来リーダ会・オールユーザーメール)8月
- (5) 外来のインフォメーションテロップ、掲示板を使って外来患者へインフォメーションを行う
- (6) 担当医事課と算定要件に関する運用検討会を実施(9月)
- (7) 電子カルテ上にサポート外来の件数を入力する画面の設定(10月)
- (8) サポート外来終了時に患者家族へアンケート調査を行い評価する
- (9) 12月に中間評価を行う
- (10) 2月の実施評価を行う

2) 緩和ケアリンクナースを育成、患者の心身の苦痛に個別に対応できる症状スクリーニングシートを作成し導入する

- (1) 病棟に症状スクリーニングシートを導入する(6月)
- (2) 症状スクリーニングシートを使って事例検討会を実施(7月のリンクナース会)
- (3) 症状スクリーニングシートの中間評価(10月)
- (4) リンクナース教育
 - ① 症状スクリーニングとは
 - ② 症状スクリーニングにおけるリンクナースの役割
 - ③ 緩和ケアにおける症状の捉えかた
 - ④ 部署のスタッフと連携した基本的緩和ケアの実施
 - ⑤ 適切にスクリーニングを行うための運用方法の工夫
 - ⑥ 専門家への橋渡し・連携方法
- (5) がん看護専門・認定看護師による病棟ラウンド(毎週月曜日)

3. 倫理的配慮

1. リンクナース会で使用した事例は患者が特定できないように配慮し、事例検討会終了後にシュレッターにかけて破棄する
2. サポート外来でのアンケート調査は患者・家族に高等で調査の説明を行い治療への影響はないこと、自由記入で回収は強制しないことを説明し実施する

【結果】

がんサポート外来は10月から開始し、毎月のテーマを決め外来患者にポスター・テロップを使ったインフォメーションを実施した。参加患者は1回平均8~10名であった、終了後に取ったアンケートでの結果は、「わかりやすかった」「少人数で聞きやすかった」「待ち時間にちょうどよかった」など、患者家族の評価は良かった。症状スクリーニングはリンクナースを中心に部署で導入することができ、各部署でのスクリーニングシートを使った工夫点をリンクナース会で情報共有することができた。現在、がん患者の9割に症状スクリーニングシートを導入できている。

がん看護専門・認定看護師の病棟ラウンドは毎週月曜日に実施し、各病棟のリンクナースが実践で困っていることなど、直接アドバイスできた。そして、その病棟ラウンドを含め、がん領域の活

動内容を可視化したことで、緩和ケアチームの介入件数は昨年の4倍に増加し、診療報酬は半年で100万円の増収となった。この結果を組織に公開した。

【評価及び今後の課題】

がん領域での看護師の役割を遂行するためには、患者決定支援、苦痛緩和、専門家への橋渡し・連携の各モジュールでの実践能力の強化が必要となる。患者の方向性をそのひとに寄り添いながら方向づけることは、経験と高いコミュニケーション能力がないと実践はできない。質の高いケアを目指すためには、がん看護に対する患者・家族のニーズをいち早く把握し信頼関係を構築することや、患者を取り囲むすべてのスタッフと、情報を共有しチーム活動を行うこと、そして専門的な関わりがもてるよう看護師が橋渡しすることが重要となる。

専門・認定看護師を使って症状スクリーニングシートの導入とリンクナースの育成を組織で取り組めるようにバックアップし、その活動の評価・結果を公表したことは、組織からの承認を受けた専門・認定看護師のモチベーションアップにつながったと考える。能力の高い専門・認定看護師を活用することは看護の質を向上させることにもつながる。看護管理者として、人材活用を組織の中でいかにシステマティックに動かせるか、今回の実践を通して学んだ。

今回は看護師主体での取り組みであり、今後はMSW等多職種を含めたチーム活動の拡大を図り、医療チームの合意形成を支援していく必要がある。2025年問題に向け、更なる外来機能の強化が求められる。意思決定支援は個々の医療者に任せるのではなく、病院全体で行う意思決定支援のための基盤作りが大切である。この取り組みをさらに浸透させ、がん患者・家族からより一層の信頼を得ることが課題である。今後も人材を活用して、看護外来の拡大を図り、看護体制を構築していきたい。